

まちづくり交付金 事後評価シート
湯原地区

平成20年12月
群馬県みなかみ町

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	群馬県		市町村名	みなかみ町		地区名	湯原地区			面積	172ha			
交付期間	平成16年度～平成20年度		事後評価実施時期	平成20年度		交付対象事業費	1,170百万円	国費率	0.4					
1)事業の実施状況	事業名													
	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	町道改良事業(1路線)、遊歩道整備(1路線)、県道街路整備(1路線)、公園(忠霊塔公園)、地域生活基盤施設(温泉街駐車場)、高質空間整備(駅前広場整備)											
		提案事業	まちづくり活動の支援方策検討											
	新たに追加した事業	事業名					削除/追加の理由			削除/追加による目標、指標、数値目標への影響				
		当初計画から削除した事業	基幹事業	県道改良事業(1路線)、地域生活基盤施設(展望台)			県道:道路事業の要件に合わないため、高質空間形成で実施。 展望台:住民との協議の結果、整備取り止め			影響なし				
			提案事業	遊歩道足湯源泉浸漕、社会実験「湯巡り」「シャトルバス」			源泉:許可申請上、困難なため。 社会実験:シャトル馬車に変更。			影響なし				
新たに追加した事業		基幹事業	町道改良事業(1路線)、遊歩道(1路線)、吊橋架替え(1路線)、公園(湯原温泉公園、諏訪峡公園)、地域生活基盤施設(ゲートホールコート用地、防火水槽、トイレ)、高質空間形成施設(県道の無散水消雪化)			道路・遊歩道・吊橋:計画区域の拡張による事業追加。 公園:回遊の核づくり、用地所有者との調整がため追加。 地域生活基盤施設:町民ワークショップの意見による事業内容追			影響なし					
	提案事業	社会実験「シャトル馬車」、町道の無散水消雪化(1路線)、事業効果分析委託			シャトル馬車:駅-温泉街-道の駅の回遊性の向上のため。 町道無散水化:計画区域拡張に伴い高所道路を無散水消雪化。			影響なし						
交付期間の変更	当初	平成16年度～平成20年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響		-								
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値	基準年度	目標値	目標年度	数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期	
	指標1	駅乗降客数(JR水上駅)	人/年	130,830	H14	200,000	H20	モニタリング	評価値	(464,200)	△	あり	改めて計測した従前値基準年の数値は540,200人/年であり、評価値はこれを下回るが、平成19年度より増加の傾向となり、歩行者環境整備、観光地の魅力作りが地区への集客に一定の効果を上げている。	平成22年3月頃
	指標2	道の駅「水紀行館」利用人数	人/年	64,000	H14	100,000	H20		42,900		×	あり	道の駅の一部有料区域の入場者数であるので、交付金事業の効果を測るに適切ではなかった。	その他指標で補完するため、実施しない
	指標3	利根川縁遊歩道でのカウト(通行者数)	人/年	0	H15	10,000	H20		23,200		○	あり	利根川縁の自然景観に触れられ、眺望にすぐれた遊歩道として、多くの利用者を得た。	-
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値	基準年度	目標値	目標年度	数値		目標達成度※1	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期	
	その他の数値指標1	日帰り観光客入込数(旧水上町区域)	千人/年	1,290	H16				1,350			観光地としての受け入れ環境改善を行ったことで、日帰り観光客の増加につながった。	平成22年3月頃	
	その他の数値指標2	道の駅「水紀行館」における年間販売売上額	千円/年	82,220	H15				337,100			道路、駐車場整備、シャトル馬車の運行などにより、道の駅利用者の増加に効果があった。	平成22年3月頃	
	その他の数値指標3	温泉公園エリアにおける満足度	%	14.0	まち交整備以前				82.0			整備終了前の期待値であるが、湯原温泉公園について、温泉街の新たな核、観光・回遊の中心として強く期待されている。	平成22年3月頃	
その他の数値指標4	道路整備に対する満足度	%	10.0	まち交整備以前				58.9			歩道の確保及び無散水消雪化による安全性の確保について、高い満足度が得られている。	-		
4)定性的な効果発現状況	<ul style="list-style-type: none"> 社会実験として行った「シャトル馬車の運行」は、温泉街の新たな観光核のひとつになりつつある。 まちやサロン「ピノキオ」においては、各種住民グループの活動ほか大学と協力のまちづくり活動の拠点となり、また「ピノキオ運営委員会」企画の「わらべ交流市」は各地の名産品を販売するだけでなく当地との人的な交流も深めている。 「湯原温泉公園運営委員会」においては、対象となる公園の話だけではなく、温泉街全体のまちづくりについて話し合う場ともなっている。 													
5)実施過程の評価	実施内容					実施状況					今後の対応方針等			
	モニタリング	なし				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった					-			
	住民参加プロセス	まちづくり協議会「まちうち再生委員会」 住民参加ワークショップ「忠霊塔公園」「温泉街駐車場」 湯原温泉公園運営委員会				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった					● 今後とも施設に関する町民を中心に意見を聞いて、利用促進、管理運営の充実を図る。湯原温泉公園については、日常的な管理を運営委員会を中心に地元にかかせていく。			
持続的なまちづくり体制の構築	まちづくり協議会への活動支援「ピノキオ運営委員会」				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった					● ピノキオの企画・運営・維持を行う組織として、自立した運営体制構築のための検討を進める。町は、徐々に後方支援への移行を図る。				

様式2-2 地区の概要

湯原地区(群馬県みなかみ町) まちづくり交付金の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標		従前値	目標値	評価値			
「歩いて回れるまちづくり」 ○ 停留型の観光を目指し、リピーターの確保を推進する ○ 地域の文化と情報、自然環境に恵まれた四季折々の統治の特色を観光客に伝える ○ JR水上駅から道の駅「水紀行館」までの歩いて回れるネットワーク化	駅乗降客数(JR水上駅)	単位: 人/年	130,830	H 14	200,000	H 20	(464,200)	H 20
	道の駅「水紀行館」利用人数	単位: 人/年	64,000	H 14	100,000	H 20	42,900	H 20
	利根川縁遊歩道でのカウント(通行者数)	単位: 人/年	0	H 15	10,000	H 20	23,200	H 20
		単位:		H		H		H
		単位:		H		H		H



まちの課題の変化

- ・利根川縁遊歩道の整備、シャトル馬車の運行により、水上駅-湯原温泉街-道の駅の回遊性が増した。
- ・湯原温泉公園、温泉街駐車場の整備により、これを中心とした回遊が成立し湯原温泉街の魅力が高まった。
- ・歩道の整備、路面の無散水消雪化を実施したことにより、歩行者の通行の安全、冬季の車両通行の安全性が高まった。
- ・諏訪峡遊歩道の整備に加え、吊り橋の整備、公園の整備をあわせて行うことで、観光の核としての魅力が増加した。

今後のまちづくりの方策(改善策を含む)

- ・JR水上駅のリニューアルに伴い、観光客、住民にとって使いやすい駅前広場の整備を検討し、鉄道と駅を中心とした観光拠点の構築を進める。
- ・歩行者の安全確保をより進めていくため、道路の車道と歩道の明確な分離、歩道の改良などを進める。
- ・遊歩道、歩行者空間の連結を進め、JR水上駅～諏訪峡まで地区全体を歩いて回れるネットワークづくりを進める。
- ・温泉街と連携した温泉公園でのイベントなど、整備された基盤を活かすソフト的な面での取り組みを進める。
- ・空き店舗や後継者難の店舗を活用した商店街の魅力づくりについて支援を進める。
- ・日帰り観光客のリピーター確保に加え、宿泊客の増加を目指し、住民・温泉街関係者の積極的なまちづくり活動の展開を図る。